

平城西中学校区の学校規模適正化説明会 報告

平成 30 年 2 月
奈良市教育委員会事務局教育政策課

平成 30 年 1 月 26 日（金）に平城西中学校にて、平城西中学校区の学校規模適正化説明会を開催しましたので、その概要を報告します。

説明会の概要について

右の表のとおり、説明会を開催しました。
説明会では、奈良市の学校規模適正化計画や、平城西中学校区の子どもたちの教育の現状と今後について、市教育委員会事務局から説明しました。

また、富雄第三小中学校の石原校長も出席し、施設一体型の小中一貫校の概要や子どもたちの様子等についてお話ししました。

説明会の流れ

1. 奈良市の学校規模適正化計画について
2. 平城西中学校区の子どもたちの教育の現状と今後について
3. 施設一体型の小中一貫教育について
富雄第三小中学校 石原校長
4. 意見交換

1 奈良市の学校規模適正化計画について

奈良市立小・中学校の児童生徒数は昭和 50 年代から 60 年代をピークに、減少傾向が続いており、平成 29 年度には小・中学校においてピーク時の半数になっています。

このような状況の中で、平成 20 年 1 月に「奈良市学校規模適正化実施方針」を策定し、この実施方針に基づいた実施計画を定め、学校規模適正化の取組を進めています。市教育委員会では、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいものと考えています。

*詳細につきましては、奈良市教育委員会ホームページ『学校規模適正化について』をご覧ください。

2 平城西中学校区の子どもたちの教育の現状と今後について

右京小学校、神功小学校の児童数は、平成 20 年度からこれまで減少が続いており、平成 29 年度から 32 年度までの推計では横ばいの状態が予想されます。また、平城西中学校の生徒数は、平成 23 年以降減少が続いており、平成 32 年度までの推計では減少が続くと予想されます。少子化が進む中、後期計画においては、『右京小学校、神功小学校、平城西中学校は小規模校であり、平城西中学校区全体の教育環境を鑑みた小中一貫教育を軸とした統合再編を検討する』という案を考えています。

このことを受けて市教育委員会としては、更なる教育の充実に向けて 3 校を 1 つにし、中学校の校舎の増築や改修を行って施設一体型の小中一貫教育を行うことを提案しており、新しい学校づくりのポイントは次の 2 点です。

★魅力ある教育…施設一体型の強みを生かし、小学 1 年生から中学 3 年生までを見通し、たくましく生き抜く子どもを育成すること

★魅力ある施設…中学校の校舎の増築や改修を行い、施設一体型の小中一貫校をつくること

学校づくりの基本理念は、次の3点です。

- ①施設一体型小中一貫教育を実施し、教育の充実を図ること
- ②確かな学力を身に付けさせて、未来を生き抜く子どもを育てること
- ③地域とともにある学校づくりを目指すこと



この基本理念を実現するために、9年間の学びの連続性を重視したカリキュラムに基づいて教育活動を展開します。また、育てたい子ども像や教育のビジョンを共有し、目標の実現に向けて学校・保護者・地域が協働して子どもたちの成長を支える仕組み（コミュニティ・スクール）を実現します。

校舎設計についても、この3つの基本理念に基づき、魅力ある施設づくりを目指します。



新しい校舎のイメージ (案)

市教育委員会としては、小・中学生が日常的に交流できるスペースやトイレの洋式化、地域の方も利用可能な多目的ホールなどを提案しますが、どのような部屋や施設が必要か、保護者や地域の皆様と議論し、優先順位を考えながら決定していきたいと考えています。

次世代を担う子どもたちの可能性を最大限に伸ばしていくために、保護者の皆様や地域の皆様のご意見を聞きながら、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える学校づくりを目指したいと考えています。

*詳細につきましては、『平城西中学校区の学校の将来構想 (案)』をご覧ください。

3 施設一体型の小中一貫教育について（富雄第三小中学校 石原校長）

小中学校の教員が子どもたちの生活指導や教科の指導法について情報を共有したり研修したりすることで、子どもたちが落ち着いた環境で学校生活を送っています。このことが1つの校舎で小中学生が学ぶことの良さだと考えています。また施設面において、階段式で200人収容可能な「富三ホール」は小中学生が集える場だけではなく、地域の自治会でも活用していることを紹介しました。

4 意見交換

子どもたちをより良い教育環境の中で過ごさせてあげたいので、早く実現してほしいという意見やきれいな施設や新しい教育よりも、今ある学校を大切にしてほしいという意見など、様々な意見をいただきました。

学校規模適正化 Q&A

Q：学校規模適正化はなぜ必要なのですか。

A：学校規模の適正化は、学校の適正配置と適正規模を維持することにより、教育環境を整える事業です。平成27年1月に文部科学省から「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が出されました。全国的にも学校規模の適正化や少子化に対応した学校教育の充実策についての取組が進められています。児童生徒が集団の中で、一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特徴を踏まえ、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいものと考えています。

Q：人数が少ないと、先生にきめ細かく見てもらえます。このままではいけないのですか。

A：小規模校は、児童生徒・教員・保護者を含めて互いの結びつきが深くなり、児童生徒の個性や能力に応じた丁寧な指導や家庭的な人間関係を形成しやすいというメリットがあります。その反面、小規模校の課題としては下記のようなことが考えられます。

- 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい。
- 多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい。
- クラス替えが全部又は一部の学年でできない。
- クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
- 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
- 経験年数、専門性、男女比等バランスのとれた教職員配置やそれらを生かした指導の充実が困難となる。

小・中学校期は児童生徒にとって集団生活の中で社会性を学ぶ大切な時期です。市教育委員会では、ひとりでも多くの仲間と学び合い、触れ合うことができる機会を作ることが大切だと考えています。

Q：これまでの奈良市における学校規模適正化の取組を教えてください。

A：平成19年度に「奈良市学校規模適正化実施方針」を策定し、この方針に基づいた実施計画を定め統合再編を実施してきました。これまでの取組によって、興東小学校、帯解小学校、興東館柳生中学校、都祁小学校を開校しました。

*詳細につきましては、奈良市教育委員会ホームページ『学校規模適正化』をご覧ください。

貴重なご意見を賜りましてありがとうございました。今後とも、保護者の皆様及び地域の皆様のご意見を聞きながら、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える学校づくりを目指したいと考えています。

お問い合わせ先：奈良市教育委員会事務局教育政策課 TEL0742-34-5386